

提 言 書

「『未知への挑戦』とくしま行動計画」 の評価結果について



令和5年11月

県政運営評価戦略会議

は じ め に

県政運営評価戦略会議（以下、「戦略会議」という。）では、県政運営指針である「『未知への挑戦』とくしま行動計画」（以下、「行動計画」という。）について、主要施策ごとの進捗状況の評価等を実施した。

今年度は、令和元年度に策定された行動計画の最終年度である4年目の評価として、「令和4年度の実績及び成果」を基礎としつつ、会議における委員間の協議の結果も踏まえ、評価を行った。

また、とくしま目安箱等に寄せられた「県民からの意見・提言」の中から、県の施策に反映すべき優れた意見・提言として11件を採択した。

ここに、評価結果等を「提言書」として取りまとめたので、徳島県総合計画審議会において速やかに御協議いただき、「既存事業の見直し」や「新たな事業・施策の展開」につなげるとともに、「次期総合計画」の策定にも御活用いただきたい。

令和5年11月24日

県政運営評価戦略会議
会 長 石田 和之

目 次

	ページ
I 行動計画の評価について	1
1 評価方法について	1
(1) 評価の対象	1
(2) 判定・評価の単位	1
(3) 判定・評価の基準及び手順	1
(4) 戦略会議の開催状況	1
2 評価結果について	2
(1) 総括	2
(2) 評価結果の概要	4
(3) ターゲットごとの意見	5
(4) 総合的な意見	11
(5) 「徳島に『にぎわい』を生み出す」というテーマに関する意見	11
3 次期総合計画への反映	14
II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について	15
1 「とくしま目安箱」に寄せられた優れた意見・提言	15
2 「今これ！とくしまボックス」に寄せられた優れた意見・提言	16
戦略会議委員名簿	17

I 行動計画の評価について

1 評価方法について

昨年度に引き続き、評価基準を客観化し、「委員からの提言」に重きを置く評価方法とした。

また、「県民目線・現場主義」の観点から、4年間の計画期間が終了した行動計画の施策や事業に対する「県民意見」を踏まえた上で、「徳島に『にぎわい』を生み出す」というテーマに関する集中議論を行い、県が「今後進むべき方向性」について、委員提言を実施した。

(1) 評価の対象

行動計画に位置付けられた主要施策（91施策）の「令和4年度の実施及び成果」を評価の対象とした。

(2) 判定・評価の単位

- ① 判定
主要事業（654事業）を判定単位とした。
- ② 評価
主要施策（91施策）を評価単位とした。

(3) 判定・評価の基準及び手順

- ① 判定
担当部局があらかじめ作成した評価シートを基に、「数値目標」の達成率を基礎として、「主要事業」の達成率を算出し、次の区分のとおり、A、B又はCの3段階で、客観的、機械的に判定した。

主要事業ごとの「判定」区分		
A	B	C
主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上	主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満

- ② 評価
判定結果から算出した評価案を基に、会議における委員協議の結果を踏まえ、「順調」、「要注視」又は「要改善」の3段階で評価した。

主要施策ごとの「評価」区分		
順調	要注視	要改善
主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上	主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満
委員からの提言を加味		

(4) 戦略会議の開催状況

第1回会議は8月21日（月）、第2回会議は8月25日（金）、第3回会議は8月28日（月）に開催し、第4回会議は11月3日（金）から11月24日（金）までの期間で書面会議により実施した。

2 評価結果について

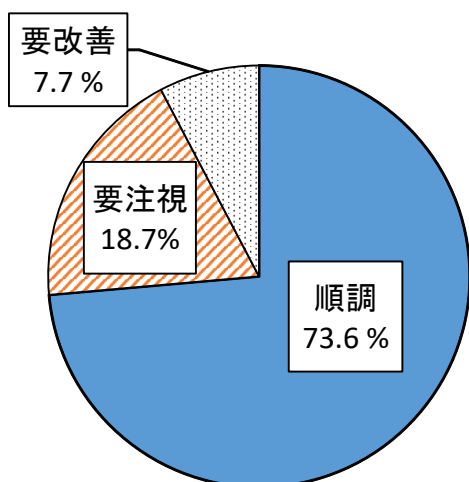
(1) 総括

今回の評価結果は、次の表－1のとおり、
 「順調」と評価したもの 67施策 (73.6%)
 「要注視」と評価したもの 17施策 (18.7%)
 「要改善」と評価したもの 7施策 (7.7%) となった。

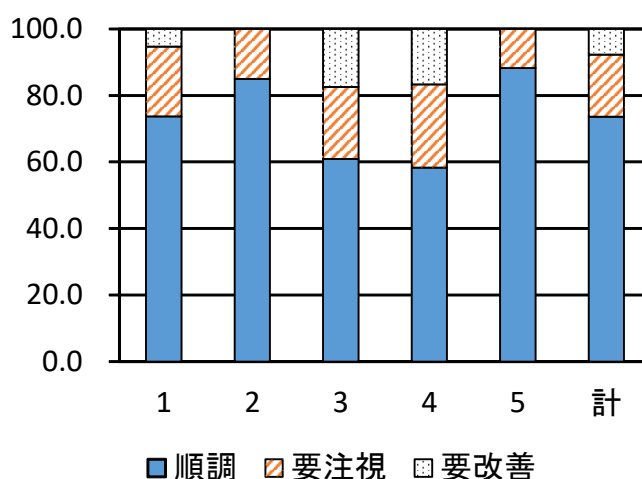
表－1 主要施策の評価結果

ターゲット	主要 施策数	評価結果		
		順調	要注視	要改善
1 未来へ雄飛！ 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	19	14 (73.7%)	4 (21.0%)	1 (5.3%)
2 未来へ加速！ 「強靱とくしま・安全安心」の実装	20	17 (85.0%)	3 (15.0%)	0 (0.0%)
3 未来へ挑戦！ 「発展とくしま・革新創造」の実装	23	14 (60.9%)	5 (21.7%)	4 (17.4%)
4 未来へ発信！ 「躍動とくしま・感動宝島」の実装	12	7 (58.3%)	3 (25.0%)	2 (16.7%)
5 未来へ継承！ 「循環とくしま・持続社会」の実装	17	15 (88.2%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)
計	91	67 (73.6%)	17 (18.7%)	7 (7.7%)

図－1 評価状況(全体)



図－2 評価状況(ターゲット別)



<参考> 評価の基礎となる主要事業の判定結果

ターゲット	主要事業数	判定区分			
		A	B	C	判定外(※)
1 未来へ雄飛！ 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	142	92 (64.8%)	11 (7.7%)	12 (8.5%)	27 (19.0%)
2 未来へ加速！ 「強靱とくしま・安全安心」の実装	173	94 (54.3%)	7 (4.1%)	4 (2.3%)	68 (39.3%)
3 未来へ挑戦！ 「発展とくしま・革新創造」の実装	177	117 (66.1%)	12 (6.8%)	16 (9.0%)	32 (18.1%)
4 未来へ発信！ 「躍動とくしま・感動宝島」の実装	47	28 (59.6%)	0 (0.0%)	6 (12.8%)	13 (27.6%)
5 未来へ継承！ 「循環とくしま・持続社会」の実装	115	73 (63.5%)	3 (2.6%)	4 (3.5%)	35 (30.4%)
計	654	404 (61.8%)	33 (5.0%)	42 (6.4%)	175 (26.8%)

※ 判定外とは、主要事業ではあるが数値目標の設定が適さないものや、数値目標はあるがその実績が判明していないもの等である。このような事業については、その取組状況を評価の参考としている。

(2) 評価結果の概要

今回の評価結果において、全91施策のうち、「順調」と評価したものは67施策(73.6%)、「要注視」と評価したものは17施策(18.7%)、見直しが必要な「要改善」と評価したものは7施策(7.7%)となった。

この結果を過年度と比較すると、表-2に記載のとおり、昨年度からは「順調」が増加、「要改善」は減少しているものの、新型コロナ流行前である令和2年度の水準までは至らなかった。

また、今回、「要改善」と評価した主な主要施策は、次のとおりである。

○「本省・本社機能の移転推進」(ターゲット1-1-3)

要因としては、「消費者行政の発展・創造」にかかる事業の数値目標である「消費者庁等の徳島移転」の達成率が低かったことが挙げられる。政府関係機関の地方移転は、国の評価を踏まえた対応が必要であることから、全面的移転はできなかったため、未達となった。

○「ゲートウェイとくしまの加速」(ターゲット3-2-4)

要因としては、「地域経済の発展や国際貿易の充実・強化」にかかる事業の数値目標である「コンテナ貨物の取扱量」の達成率が低かったことが挙げられる。新型コロナ感染拡大等の影響により、貨物量が減少したため、未達となった。

○「あわ文化による『文化と経済の好循環』」(ターゲット4-1-1)

要因としては、「あわ三大音楽」にかかる事業の数値目標である「『とくしま夏の音楽祭』への参加者数」等の達成率が低かったことが挙げられる。新型コロナの感染拡大により、規模を縮小して実施した等のため、未達となった。

表-2 過年度の評価結果との比較

計画年度	主要 施策数	評価結果		
		順 調	要 注 視	要 改 善
今 回 (計画最終年度) の評価結果	91	67 (73.6%)	17 (18.7%)	7 (7.7%)
R4年度 (計画3年目) の評価結果	91	62 (68.1%)	20 (22.0%)	9 (9.9%)
R3年度 (計画2年目) の評価結果	91	50 (54.9%)	16 (17.6%)	25 (27.5%)
R2年度 (計画初年度) の評価結果	91	78 (85.7%)	9 (9.9%)	4 (4.4%)

(3) ターゲットごとの意見

委員から、5つのターゲットごとに、次のとおり意見が出された。

ターゲット1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

- ア 移住者が徳島のどんなところに強みを感じ、徳島に来たのか。その意見を集約したあと、その内容が計画に反映されているのかが見えてこない。移住者からこういう意見が多数あったので、こんな目標を立てて、こんな取組をしていきたいというように、移住者からの声を活かしていることが見える計画を策定していただきたい。
- イ 県人口は着実に減少しているのに、移住者数がA評価ということに非常に首をひねりたくなる。目標値の数字は、徳島県を維持していくために、毎年どれだけの移住者数が必要か検証して立てていただきたい。そして、その目標が未達となったら、その要因をしっかりと突き止めないと、更に悪化し、もうどうしようもない結果になると思う。
- ウ 移住者数は、他の地域の増え方と比べてどうかという点も、今後、目標を立てるうえで参考にする必要があると思う。
- エ 「とくしま回帰」の流れを加速させるには、徳島県で作られる農林水産品・工芸品等の全てが集約され、全国に商品を発信できるアンテナショップの力が非常に大きい。こうしたものを核にしなが、常設的に徳島をPRしていく具体的な取組をお願いしたい。
- オ デュアルスクールの学校の人気は、受け入れできる家が整っているかどうかにより偏る。デュアルスクールの芽はもっとあると思うので、住民任せにより出てきた成果だけで満足せず、行政からも受け入れできる家を整えていただきたい。
- カ 婚活の現場を見ると、独身男性は多いが、独身女性がいない。IターンやUターンを含め、女性に地元に残って定住してもらうための取組を、総力を挙げて考えていただきたい。
- キ 本社機能移転とサテライトオフィス誘致は、都市近郊の自然豊かな地域も力を入れている。徳島は地理的なハンデがかなりある中で、そのような地域との取り合いに勝とうとするのではなく、いかに徳島の良さを伝え、徳島に来たい人に来てもらえる環境を整えていくかが重要。価値観や働き方の変化に合わせ、弾力的に受入れ体制を構築いただきたい。
- ク リカレント教育については、徳島大学も色々なプログラムを提供し、内容の充実を図っている。今後は、大学とも連携し、県内トータルで、学び直しを提供できるよう検討いただきたい。
- ケ 健康寿命は重要な指標であり、徳島の魅力度を引き上げる要素になると思うが、徳島は全体では下の方なので、単に延伸するだけではなく、全国トップになることを目指して、強力に取り組んでもらいたい。

- コ 毎年未達の「支援制度を活用した『保育助手』雇用施設数」は、その要因と課題解決策が毎年同じ記載で進捗がなく、これではいつまで経ってもC評価から脱出できないと思う。要因が明確なら、もう少し具体的な就労促進の図り方や、市町村の課題に県としてどう解決していくか、徹底的に議論して共有し、具体的な進捗をしっかりと示していただきたい。
- サ 教育は世帯収入に直結していると思う。そして、世帯収入が増えると、子どもをたくさん産めるようになり、出生率の増加につながる。将来の出生率に良い影響が出るよう、どんな家庭でも留学という選択も考えられるように教育費を補助するなど、全ての家庭に教育が行き届く取組に力を入れると思う。
- シ 待機児童数はゼロになっているが、働く人は、自宅や職場から遠い園でも、受け入れてくれるとなれば預ける。それが本当に子育てのトータルサポートになっているのか、待機児童数という指標では判断できないので、実情に併せた他の評価指標や情報を整理し、働きたい人が働けるような本当のサポートとなるよう、実情に即した取組を充実させていただきたい。
- ス 地方創生と議員の活動は直結すると思うので、議員の候補生を育む視点の指標があるといいと思う。これを地域がやろうとすると、大変な偏りが出て揉め事になるため、行政にしかできない事として取り組んでいただきたい。
- セ 徳島の魅力を発信する手法として、名刺の裏を使ってアピールする方法があるが、「阿波ふうど」は、「風土」と食の「フード」を併せて徳島を売れる良い商標なので、「阿波ふうど」のデザイン入りの名刺を作るといいと思う。

ターゲット2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装

- ア ターゲット2の最終的な評価は、実際に災害が起きた時に、今の取組がどれだけ役立ったかにより、判明すると思う。より多くの人を助けられるよう、今やっていることは、今後も継続的に取り組んでいただきたい。
- イ 即時性の高いSNSでの災害情報発信は、TikTok等を使った若者をターゲットにした手法など、時代に応じた啓発方法を採用し、更に強化していくべき。また、ユーザーの満足度が課題であり、今後調査していく必要があると思う。
- ウ 今後の南海トラフ巨大地震対策等において、関西広域連合との連携は重要性が更に増してくる。徳島県は受援の視点での連携訓練が非常に大事であるため、訓練の参加に向けては、徳島県から積極的に働きかけていていただきたい。
- エ 防災士10万人あたりの新規登録者数全国1位を目指してはどうか。県職員や一部の市町村職員に留まらず、他の市町村職員にも拡大していくことを期待する。職員対象の防災士研修について、まだ実施・計画していない市町村への横展開をお願いしたい。

- オ 防災士の登録者数に対し、防災士会の会員数は少ない。資格を取っても活用・活躍されていない方が多いため、地域・職場で防災士が活躍できるような工夫が必要である。また、近年は、中高生を対象とした防災士養成講座が実施されているが、中高生の活躍の場は少ないので、特にフォローアップが必要だと思う。
- カ 消防団員の確保について、「消防団応援の店」という店舗を対象とした取組があるが、社会福祉法人や企業などにも裾野を広げてはどうか。また、消防団と防災士の役割は重なっている部分があるため、防災士を消防団に取り込んでいくのも一つの戦略だと思う。
- キ 復興イメージトレーニングは、研修を受けた自治体職員が地域住民にどのように展開していくかが重要なポイント。高度なスキルを要するワークショップのため、各自治体での展開には、県の協力が必要だと思う。
- ク 徳島県の指定福祉避難所は、ほとんどが入居型の高齢者施設。近年の災害では、ホテルや旅館を活用する事例が増えているが、徳島県では、ホテルや旅館との災害時協定の締結以降、具体的な協議が止まっている状況のため、動かしてもらいたい。ホテルや旅館の避難所としての利点は非常に多いということを、事業所に理解してもらうことが重要。
- ケ 「道路交通ネットワークの機能強化」については、平時も災害時も、住民や観光客、今後転入してくる方々など全ての人に、とても大きな影響を及ぼす。社会的には、物価の高騰や災害の激甚化もあるが、安全性・利便性を向上し、快適性をしっかりと確保するため、引き続き弾力的に取り組んでいただきたい。
- コ 危機管理型水位計は、地域住民にほとんど認知・活用されていない。また、設置場所の検討段階において、行政と住民との連携が不足しているという課題も指摘されている。設置数を増やすことも重要だが、活用に伴う課題を把握することが、実際の課題だと思う。
- サ 新興・再興感染症の対策については、今までの経験を踏まえて、次はこんな訓練をして、こんなことをしなければいけないという知見のもと、頑張っていることは、県民にも発信し、意識が薄れていかないよう、注意喚起も行っていただきたい。
- シ 本省機能の地方移転については、全国に先駆けていち早く着手し、牽引してきた実績があるため、今後の受け入れ態勢の構築についても、しっかりと柔軟に取り組んでいただきたい。
- ス 本省・本社機能の移転については、全面移転が全てではなく、働き方や価値観が変わっている中で、雇用増加、経済活性化、転入者増加など、目的をもう一度整理して、プロセスを細分化し、メリットを再確認した上で、サテライト的な移転なども含めて取り組んでいただきたい。

セ 鳥獣被害対策については、本当によく取り組んでくれているが、まだまだ現場では鳥獣被害により耕作をやめたという声を聞くので、引き続き頑張っていたいただきたい。

ソ 特定外来生物や、気温上昇に伴い飛来してきた毒を持った虫たちの発生については、今後どのようなものが増えてくるか分からないので、できるだけ早く広報していただきたい。

ターゲット3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装

ア 自然体験というのが、観光客にとって大きな魅力であり、徳島県は釣りの聖地なので、徳島の自然の中で手軽に釣りを楽しめる観光プログラムづくりに、力を入れていただきたい。

イ 地元の人々の藍染め製品の購買意欲を刺激し、藍の地産地消を広げていただきたい。例えば、制服を藍染めにする会社には補助金を出すなど、地元での藍の消費を引き上げる施策を検討いただきたい。

ウ 建設業の人材不足と高齢化は非常に深刻で、若手・女性雇用の拡充が重要なポイント。若手の確保については、ICT活用による身体的な負担軽減や業務の効率化、女性雇用においては、処遇の改善や子育て支援等が解決しないとなかなか人材が集まらない。自社のPRに留まらないインターンシップの企画や、建設業の土俵だけでなく、情報系の学生にもアピールするなどの対策をするといいと思う。

エ データサイエンス教育について、学校の指導体制が十分ではないために、生徒たちの学ぶ機会が失われている残念な現状があると感じる。子どもたちのニーズに対応できるよう、情報専門の先生を補助する方を民間等から派遣するなど、サポート体制を整えていただきたい。

オ 「とくしまデジタル支援員」が講師を務めるデジタル活用講座の参加者数について、目標値より実績値が大幅に多く、想定より困っている人がたくさんおり、用意していた受け皿が少なかったと読み取れる。このような、達成しているが、実は改善が必要となる項目についても、テコ入れをしていく必要があると思う。

カ デジタル活用の支援は、シニア層向けが目立つが、30代40代の人たちも、自分が子どもの頃にはなかったスマホがあり、自分の子どもとスマホの距離感に悩むなど、情報リテラシーの開きやデジタルタトゥー^{*1}の理解が足りていない部分があるということを考慮いただき、次の計画を策定いただきたい。

※1 デジタルタトゥー

一度ウェブ上に記録されたデータは容易に消去することができず、永続的に残り続けるさまを、入れ墨（タトゥー）になぞらえた語。ソーシャルメディアへの軽率な投稿や、本人の許諾なくウェブで拡散してしまった画像などを指す。

キ 渦の道のガラス面は、時間の経過とともに白っぽく汚れている。観光客に、渦の素晴らしさや綺麗さ、迫力を感じていただきたいので、対策をお願いしたい。

ク 日々、にし阿波の農地や山を見ていると、荒れてきている場所もあれば、良い場所なのに誰も農作しない場所があったりする。世界農業遺産の土地を残し、後継者へ引き継いでいけるよう支援をお願いしたい。

ケ 本格的なインバウンド時代が復活する状況にある今、上海事務所の活躍がますます重要になってくる。中国の瀋陽や大連などと経済交流、民間交流ができるよう、徳島からのLCCも含めた航空路の開設に向けた仕掛けを作っていただきたい。

コ 企業マッチングや事業承継は、成立が難しいと聞く。税負担や個人保証の問題等がある中、相談件数を増やし、案件の掘り起こしや啓発活動を推進することが重要である。今後、廃業していく個人、中小企業が増え、経済の衰退につながっていくと思うので、なお一層の努力をお願いしたい。

ターゲット4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装

ア 地域の伝統行事がコロナ禍で急速に衰え、なくなりつつある今こそ、地域の方に、伝統行事の模様を撮影した記録を県に提出してもらい、デジタルアーカイブに残すという取組をお願いしたい。

イ 県内には板碑^{※2}と言われる石仏がたくさん設置されており、市町村によっては、文化財として認定し、保護されているものもあるが、野放しのもの、道路工事やお寺の改築で保存が不十分なものも存在する。板碑は、主に平安時代から中世のものであり、石仏の表面が劣化し、見えなくなるものもあるので、調査・保存することが必要だと思う。

ウ 文化財構造物への防火設備設置数について、今後、数値目標を設定する際には、あと全部でいくつ設置が必要なのか、その件数も分かるようにしていただきたい。

エ ロケの支援件数については、徳島の魅力の発信、受け入れ体勢の整備、ロケ前・ロケ中・ロケ後のサポートに加え、交通の利便性の向上もかなり重要である。それぞれが別個にならない、抱き合わせの方法で発信するなど、効率的に取り組んでいただきたい。

※2 板碑

鎌倉時代から江戸初期にかけて盛んに行われた、死者の追善供養のために建てた平たい石。

ターゲット5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装

- ア 2050年までに炭素を半分にすることを目指すのであれば、フォアキャスト^{*3}的なこの計画では絶対駄目。環境はバックキャスト^{*4}的に評価しないと、想像以上に破壊が進む。バックキャスト的に見たときに出てきた数字が達成困難に見えても、その達成に向けて県民がどれだけ努力できるかということが重要である。
- イ 環境対策の普及啓発の仕方としては、ライフスタイルを転換しなければ、あなたの生活は非常に大変な状況になると、ある程度訴えかけるようなやり方も必要だと思う。今までよりも、厳しめに評価、計画の策定、宣伝が必要だと思う。
- ウ ゴミの処分は、焼却が一番楽な方法であるが、焼却したゴミを捨てる場所が今、想像以上のペースで埋まっている状況。ゴミを減らすため、お金になるゴミを紹介するなど、ゴミの再利用をする人が増えるよう、働きかけていく必要がある。
- エ 「環境首都とくしま」と掲げてから長い時間が経っているが、全体的に環境の分野の評価が低い状態が続いているのは、施策と目標にずれが生じているためと読み取れる。弾力的に取り組む施策に加え、ドラスティックな変化のある施策も検討していただきたい。
- オ 快適なエアコンの中で暮らす今の子どもたちは、絵本やSNSによる啓発では、環境が激変していることを肌身に感じれないと思う。外に出て自然体験をする中で環境の変化を感じてもらい、その上で副読本等で教えていくと思う。
- カ 好奇心は自然体験により作られるという話を聞いた。今の子どもたちは、五感で感じる体験の機会が少なくなっているため、子どもたちが自然体験ができる取組を、徳島独自の方針で進めていただきたい。
- キ 剣山は、夏休みや紅葉の時期には登山客が多く、駐車場が一杯になり、停めきれない車が道に止められたりしている。さらに、交通量も多くなるため、剣山手前の狭い道は大渋滞になり、周辺住民の方が車がすれ違えないという問題が起きており、対策をお願いしたい。

※3 フォアキャスト

過去のデータや実績などに基づき、現状で実現可能と考えられることを積み上げて、未来の目標に近づけようとする方法。

※4 バックキャスト

未来のある時点に目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法。

ク 剣山に来る方が増えてきたため、剣山サポータークラブの活動や、希少野生生物の調査や保護には、今後とも力を入れていただきたい。

ケ コウノトリ救護センターについて、NPOだけに任せるのではなく、県・市が協力して、他県からもコウノトリを見学に来てもらえるような施設にするとともに、徳島大学との学術研究の拠点として位置付けることを検討いただきたい。

(4) 総合的な意見

行動計画全体に対して、次のとおり総合的な意見が出された。

ア 個別指標は達成していても、大きい目標は未達成なのであれば、何か施策が欠けているのか、中身と目標がずれているのかが考えられる。次の計画策定の際には、全体の整合性にも配慮が必要である。

イ 非常に多くの数値目標が、研修会の受講者数等に設定されているが、これは最終的な目標ではなく、あくまでも目標を達成するための手段。その手段を達成することが、本当に最終的な目標につながっているのか検討が必要である。

ウ 今後は、ウィズコロナとして県民が何を考え、どうしてほしいのか、県民目線・現場主義に立って、県民に寄り添った施策を推進していくことが必要だと思う。

(5) 「徳島に『にぎわい』を生み出す」というテーマに関する意見

4年間の計画期間が終了した行動計画の施策や事業に対する「県民意見」を踏まえた上で、当該テーマに関する集中議論を行い、県が「今後進むべき方向性」について、次のとおり意見が出された。

ア 宿泊者数を増やすためには、泊まってこそ楽しいイベント、泊まってこそリラックスできる場所など、そういったコンテンツを創出することが必須だと思う。

イ 観光促進には、交通利便性の向上や移動時間距離の短縮が、必ずついて回る課題である。特に難しいとされる、地方から地方への移動の利便性の向上は、都市からの人流だけではなく、地方間の人流も活発化させることができるため、高速で移動できる交通網・交通体系をしっかりと整備していく必要があると思う。

ウ 人が定住するときは、必ずその地域を一度訪れてから定住すると証明されており、観光の活性化が、定住促進の一役を担うと言える。観光により地域のにぎわいを創出し、定住を促進させると、空き家の問題解消にもつながり、良い循環ができていくため、まずは観光政策に重点的に取り組んでいただきたい。

エ 新ホールについては、今後ずっと残っていく資産であるため、重々県民の声を聞いた上で、検討いただきたい。また、コロナ禍で今の子ども達たちは、やりたかったイベントや発表の機会を損失してきたため、その穴埋めをするために新ホールにどういうことができるかも、合わせて考える必要があると思う。

- オ 徳島の各地域の特色や歴史・文化を題材にした観光の取組をお願いしたい。例えば、鳴門の撫養街道は、紀貫之の碑や小宰相の局のお墓や伝説、醤油蔵・酒蔵、大谷焼、神社など、色々な歴史・文化・人々が息づいている模様が垣間見れる。そういったものをまとめて、県全体として、全国に発信する取組をしていただきたい。
- カ 観光客が訪れたいくなるような、市民も利用しやすい公設の市場を作れば、徳島の活性化につながると思う。水産物や農産物、様々な木工製品等を展示・販売できるようなスペースを開拓してはどうか。
- キ 徳島の最高の観光資源は、阿波おどりだと思う。過去に県が実施した「世界阿波おどりサミット」には非常に感銘を受けた。このようなイベントは県にしかできないため、県が総合コーディネーターとして、阿波おどりを売り出していくインターナショナルな施策を考えていただきたい。
- ク 農産物や海産物がよく採れるという、徳島の「自然」の強みを活かし、一次産業の体験型施設を作ってはどうか。それに阿波おどりや藍染めなども組み合わせ、「持続可能な徳島」をコンセプトにした、体験型の観光の取組を進めていただきたい。それがひいては、後継者育成にもつながると思う。
- ケ 小中学校において、徳島独自の形で、一次産業体験を組み込んでいただきたい。これにより、一次産業に携わる子がでてくる可能性もあるし、いずれ消費者になる子どもたちが、徳島の農産物や漁業への理解を深められると思う。
- コ 神秘的な風景や伝説がある徳島に来れば、人間のルーツを辿る旅ができるという視点で発信してはどうか。おいしい食べ物も多いため、一次産業等とも結びつけて、2泊3泊してもらえそうな県にしていきたい。
- サ 徳島の伝説等は、県内より県外の人の方がよく知っている。近くにありすぎて感じていないと思うので、県内の人にも是非とも発信をお願いしたい。
- シ 徳島に移住してきたが、最新の情報が入ってこないという、田舎に移住することの壁を実感している。出張時の旅費や交通費の補助など、お金の援助があると、移住促進に関して他県と横一列となっている中、頭一つ突き抜けると思う。
- ス 徳島には遊ぶところがないという理由で、県外に出て行く若者がいる。木のおもちゃ美術館のように、老若男女問わず、幅広い世代で、家族で遊びに行けるような施設があると、もっと徳島がにぎわっていくと思う。
- セ 徳島県の良さは、駐車場代無料の施設や、入館料が安い施設が非常に多いこと。そういった今ある施設が、家族みんなで行けるだけでなく、インスタ映えする、県外からも人を呼べる目玉スポットとなるよう、改善を考えていくと活気が生まれると思う。
- ソ 若者の雇用については、インターンシップの魅力を向上させることが効果的だと思う。徳島県の魅力は暮らしやすさであるため、企業や自治体は、社会福祉協議会や観光協会等の団体と一緒に、仕事と暮らしの両方をアピールできるインターンシップを提供できれば、他県との差別化が図れると思う。

- タ 原発処理水の海洋放出により、徳島県にも風評被害が出てくると思うが、漁業者はみんな燃料の高い中で頑張っているの、その際にどのように対処していくか考えていただきたい。
- チ 徳島の良さを若者に知ってもらい、SNS等で発信してもらおうなど、若者の意見や考えを聞きながら、施策に取り組んでいただきたい。
- ツ 徳島には、魅力的な宿泊施設がないわけではないが、わざわざそこに泊まりたくなるような宿泊施設がもっと必要だと思う。
- テ 徳島に泊まりに来た方に、県内の魅力的な宿泊体験メニューの情報が伝わっておらず、利用されていない。その最大の理由は、体験メニューを企画し、販売する会社が徳島にないからだと思う。予約、交通手段やガイドの確保など、全体をコーディネートする会社があるといいと思う。
- ト 経済効果を発生させてこそそのイベント開催というのは、まさにそのとおり。秋の阿波おどりは、どれだけ県外客が来たかをきちんと検証し、夏の阿波おどりととは違った見せ方のコンテンツを用意して、更に県外客を増やせるように取り組んでいただきたい。
- ナ デジタルアートフェスティバルを更に充実させるため、観覧料金を取ることも考えてはどうか。また、イベント後もアートを常設する場所を作り、魅力的な観光スポットとして、県外の人にも見に来てもらえるよう、PRすることも必要だと思う。
- ニ 音楽ホールについて、大ホールはもちろん、発表者が弾力的に使える小ホールは、ニーズも非常にあり、必要だと思う。何十年も音楽ホールがなかった徳島でようやく作るのであれば、街のシンボルとなるような観点も入れて作っていただきたい。
- ヌ 徳島の魅力を若い人に伝えきれていないと思うので、学校教育の中で、若い段階から、徳島の様々な魅力をいかに伝えていくかを考えて、地元愛を育てられる教育内容の検討が必要と思う。
- ネ 今、いろんな地域で「コト消費^{*5}」に関係する観光が盛り上がっている。特殊なコンテンツでなくても、実はこんなのがあって体験型の観光ができるというアピールに、もう少し力を入れてはどうか。
- ノ 企業誘致は、誘致してきた企業の産業の集積をどれだけ活かすことができるかどうかにより、効果の大きさが変わるという難しさがあるため、その点をいかにアピールできるかが重要だと思う。
- ハ 短期的な経済政策は効果を出すことが難しいので、長期的な政策を考えていただきたい。具体的には、義務教育で平均的な力をつけることに力を入れるとともに、徳島がどういう所か勉強する機会を持たせて、人的資源を高めていくことにより、将来の徳島の「にぎわい」や経済活性化につながると思う。

※5 コト消費

体験や思い出といった無形のものを重視する消費活動。物品ではなく、良質なサービスや特別な体験などによる満足感のために金銭を支払うこと。

3 次期総合計画への反映

行動計画は、4年間の計画期間が終了し、今回が最終の評価であり、委員からは、集大成の年として、過去4年間で最多の「80件」を超える提言が行われた。

今回の提言においては、「個々の指標と大きな目標の達成状況が合致しておらず、計画の中身と目標にズレがあるのではないか」や、「多くの指標が目標ではなく手法になっている」といった、計画そのものの設計や構造について、改善を求めるものが多く出された。

こうした提言により、計画においては、個々の指標が達成されることで、その先に掲げる大きな目標が実現されるという有機的な構造を持つことや、「どれだけ実施したか」ではなく、「どれだけ成果が上がったか」を重視した目標設定を徹底することが重要であることが、改めて認識されたところである。

今後、計画の実効性を高めるために、県として何を目指し、その目標達成に向けてどのような事業が効果的であるかを改めて意識し、計画の目標設定や実施すべき事業の抜本的な見直し・再構築に取り組んでいただくことを強く望む。

一方、評価結果について、これまでの4年間の達成状況を振り返ってみると、全ての年度で「C判定」と評価した事業が「9項目」あり、毎年度実施している計画の改善見直しの効果が十分ではなかったことを示唆している。

このような評価結果を真摯に受け止め、計画の推進にあたっては、常に事業の妥当性・有効性を検証し、機動的かつ柔軟な見直しを行うことにより、目標達成に向けた努力を継続していただきたい。

最後に、次期総合計画については、「10年先をターゲットに、『未来に引き継げる徳島』の創生を、本県が掲げるべきビジョンとする」という方針が示されており、今後、本提言書の内容全てをしっかりと受け止めて十分に参酌していただき、この計画が徳島新時代の指針として、県民のために最大限効果を発揮できるものとなるよう、県を挙げて全力で取り組んでいただきたい。

戦略会議からの提言がその一助となることを願う。

Ⅱ 「県民からの優れた意見・提言」の採択について

1 「とくしま目安箱」に寄せられた優れた意見・提言

令和4年4月から令和5年9月までの間に「とくしま目安箱」に寄せられた意見・提言のうち、次の4件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

	項目	意見・提言の内容
1	新知事に期待 タイのみならず台湾・韓国のお客さんの取り込み	海外からの旅客が来る近県の空港に囲まれている徳島においては、既存隣県の観光客の徳島誘致を目指す事が大事。春や秋の阿波踊りは海外のお客さんに楽しんでもらえる仕組を設けるべき。市町村とタイの交流支援、韓国人・台湾人の誘致、こうしたエリアのインフルエンサーの誘致。実証実験として、高松空港から美馬市・三好市への海外観光客向け無料バスの実施。タイや台湾のお客さん向けに剣山登山やスキー体験も、四国では徳島ならではの。
2	海外クルーズ船に 実は人気の徳島小松島港	2019年のクルーズ情報サイトにおける、世界のクルーズ船寄港地ランキングで、徳島小松島港は函館港と並び23位と、国内では第2位の人気となった。 徳島のように宿泊施設が少ないエリアでは、クルーズ船による観光客は非常に有効である。寄港情報を県内で共有し、寄港場では阿波踊りだけでなく着付体験やお茶の席、キッチンカーの誘致・特産品や土産物を買えるブース等でクルーズ客が港でも楽しめるようにするとともに、クルーズ船寄港のタイミングで、中心市街地で開かれる徳島マルシェやマチアソビが開催されれば、中心市街地にも誘客が見込める。
3	車がなくても生活 できる県に	公共交通機関を充実させて、車がなくても生活ができるようにして欲しい。仕事も買物もどこへ行くのも車がないと行けないというのは本当に不便。高齢者の方は特に運転に不安な方が多く、今の徳島では車がないと生活が立ち行かない。また、免許のない学生も行動範囲が狭まる。県外から移住を検討される方も、車を持たなければ生活ができないというのは不便だ。
4	教育現場でのSDGs	教育現場でもSDGsを小学校高学年ぐらいから教えていると聞くが、教育現場で発生したゴミのリサイクルなどを積極的に行っているのだろうか。案内用紙をメール配信にするなど、紙の使用を減らすことも重要であるし、資源ゴミを細かく分類し、リサイクルに回すことで、可燃ごみも減るのではないだろうか。

2 「今これ！とくしまボックス」に寄せられた優れた意見・提言

令和5年7月に「今これ！とくしまボックス」により募集した行動計画の施策や事業に対する意見・提言のうち、次の7件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

	項目	意見・提言の内容
1	リカレント教育	企業・官公署・大学等の全ての組織において、40歳代以上の「学び直し」や技術再習得を行わないといけない切実な状況。古い知識で若い世代や他の組織からの有効な提案をすべて潰してしまう。現在の生涯学習指標値のようなものではなく、大学・高専と連携したしっかりとしたりカレントプログラムを、数は少なくとも創出すべき。
2	学校教育	これからの若者にとっては、ITや先進技術の理解又は習得が必須となってくる。県のGIGAスクール構想は、若者がITや先進技術に触れる機会であるため、今後も推し進めていただきたい。学校教育は与えられる学びが圧倒的に多いと感じるので、積極的かつ自発的な学習を促すため、「自分が学びたいことを探し、自分の力で学ぶ時間」を創出するべきであると感じる。
3	観光誘客	徳島県はここ数年、宿泊者数最下位だったということで、その理由の一つとして考えられるのは、魅力的な宿泊施設や宿泊体験企画がないこと。旅の目的自体を「宿泊場所での遊びや体験」にする施策や事業を展開してはどうか。例えば、おしゃれなグランピング施設の誘致や、非日常的なお寺での宿坊体験企画など。
4	「新たな文化」によるにぎわい創出	とくしまLEDデジタルアートフェスティバルの頃と比べて、近年のLEDデジタルアートイベントは規模も小さく、PRも不十分ではないか。経済効果を発生させてこそそのイベント開催だと思っているので、イベント開催することに意義がある、というような現在のあり方は疑問。アートイベントで観光客の集客を目指すのであれば、他県の成功例を研究し、徳島県ならではのあり方を考えるべき。
5	本社機能の誘致	「本社機能の誘致」については、登記を移すだけでは、雇用の増加というメリットが得られない。本社機能にこだわりすぎず、まずは事業所を開設してもらって、県民を雇用してもらおうというスタンスの方が良いのではないかと考える。
6	地方創生	これからの仕事・産業の芽は事業所誘致から「知識誘致」に大きく変わっていく。現行の指標値の「本社機能誘致」のような形から、コワーキングスペースやリビングラボ・イノベーションラボのような、多様な知識・技術人材を集める「知識集約拠点」の整備・誘致に力を入れていくのではないかと。
7	移住交流拡大	徳島に住みたいと思わせる魅力が必要。アニメやNHKの朝ドラ等で舞台に取り上げてもらうよう働きかける。アニメだけでなく、農業大学校を中心にした農業専門家の街、徳島大学を中心とした最新医療関係者の街、鳴門教育大学を中心とした教育者の街など、専門的なオタクのスマートシティを作り、そこで住めば、最先端の知識や情報を持つ人と関わるができるようにすれば、移住する人が増えるのではないかと。

県政運営評価戦略会議委員名簿

	氏 名	現 職 等
会 長	石田 和之	関西大学 教授
副会長	阿部 頼孝	徳島文理大学 名誉教授
〃	近藤 明子	四国大学 准教授
委 員	伊庭 佳代	つるぎ木材加工協同組合 理事
〃	植田 美恵子	徳島女性農業経営者ネットワーク 会長
〃	加藤 研二	阿南工業高等専門学校 准教授
〃	金井 純子	徳島大学大学院 講師
〃	田村 耕一	徳島大学 理事(広報・渉外担当)・副学長
〃	鳴滝 貴美子	和田島漁業協同組合女性部 部長
〃	南波 浩史	共立女子大学 教授
〃	藤原 学	(公社)徳島県労働者福祉協議会 顧問
〃	榊本 久実	税理士
〃	三木 潤子	親子ふれあい教室 みきはうす 経営
〃	村上 知圭	(株)もちもちデザイン コピーライター